

『文部省原圖 博物圖諺解』(明治九年)の語彙とその性格——付、語彙索引

The analysis of vocabulary of HAKUBUTUZU-GENKAI(1876)

大橋 敦夫

Ohashi Atsuo

要旨

『文部省原圖 博物圖諺解』(明治九年)の語彙について分析した。「博物」を名乗っているが、植物・動物語彙が中心で、鉱物分野を欠いているものの、今日の理科教科書と照らし合わせると、かなり高度な内容であることが確認された。

キーワード：日本語語彙・明治期語彙・『博物圖諺解』

一 はじめに

これまで、明治初期に作成された図解語彙集のうち、「通常物」と銘打たれたもの三種の語彙を比較考察してきた(1)。「通常物」を名乗る資料は、まだ数種あり(2)、さらに調査を要するが、今回は、類書である『博

物圖諺解』(明治九年)の語彙について考察する。

対象資料の語彙・内容について、「通常物」類の資料と比較することで、両者の特質を明らかにする試みの一つである。

二 資料の紹介

まず、書誌的事項を示す。

『文部省原圖 博物圖諺解』(明治九年八月刻成)

橋爪貫一校訂・松井惟利編輯

松井惟利蔵版(編輯出版人)

見出しに内表紙。本文一六丁。裏表紙見返しに刊記。凡例・題言なし。和装タテ二二・五×ヨコ一四・九cm。こげ茶色表紙。

内容は、角書(文部省原圖)が示すとおり、掛図を解説するためのハン

博物圖諺解

東京

橋爪貫一 校訂

松井惟利 編輯

第一〇 全葉之形

十全葉 ジフゼンエフ ハ全ク葉ノ總名ヲ云ヒマス

尖葉 センエフ ハ葉ノ尖リタル所ヲイヒマス

總管 ソウクワン ハ葉ノ中央ニアル莖ヲ云ヒマス

細管 サイクワン ハ總管ヨリ横ニ出タル管ヲイヒマス

葉柄 エフヘイ ハ葉ノ柄ヲイヒマス

托葉 ドンエフ ハ葉柄ノ付根ノ所ヲイヒマス

細長披針狀 サイナヤウヒシンヂヤウ ハ細長クシテ披針ノ狀チヲ示シタル葉ニテ則チ標ノ葉ノ如キヲイヒマス

披針狀 ダヒシンヂヤウ ハ披針ノ狀ヲ示シタル葉ニテ則チ桃ノ葉ヲイヒマス

專勿 抄 年

一

ドブックである（図版参照）。

半丁で、最大一六語を掲げ、合計二九三語を収録する。各語の解説は、次のような形式で、文末を「云ヒマス」で閉じている。

等形（リツケイ）ハ笠ノ形ヲナシタル葉ニテ則チ蓮ノ葉ライヒマス

なお、資料の所蔵先は、旧作新学校本館（作新記念館・長野市指定文化財）である。閲覧の御許可をいただいた長野市教育委員会に深謝する次第である。

三 『文部省原圖 博物圖彙』（明治九年）の語彙の特徴

三― 本書の構成（語彙の配列）

全体が、大きく六（植物分野四・動物分野二）に分けられている。

第一……全葉之形

四一語

葉端之形

六語

葉尖之形

五語

外内二部之區別

四語

根塊之形

八語

複花之形

八語

単花之形

九語

第二……果実之形

四三語

蓴果之類

一五語

第三……穀物之類

一四語

莢豆之類

一四語

根塊之類

二二語

第四……葉茎之類

二二語

葷辛之類

一三語

海藻之類

一四語

芝柵之類

一四語

動物第一……四手之類

四語

翅手之類

二語

殺生類之一

三語

殺生類之二

一六語

殺生類之三

四語

嚙齒之類

一一語

無齒之類

二語

雙蹄之類

一〇語

單蹄之類

四語

多蹄之類

四語

游水之類

六語

袋獸之類

一語

鳥嘴之類

一語

動物第二……第一目 食肉之類

六語

第二目 縁木之類

四語

第三目 唱之類

三一語

第四目 鶏之類

八語

第五目 走之類

二語

第六目 涉之類

一一語

第七目 游之類

一二語

収録語数二九三語のうち、植物語彙は二五一語、動物語彙は一四三語である。

また、各分類項目の語からも明らかであるが、収録されている語は、専

問性の高い難解な語が多い。掛図とともに学ぶにせよ、初等教育段階では、かなり無理があると言える。

三二二 同種の資料との語彙の一致度

続いて、前稿までで扱った三種の資料との語彙の一致度について見てみる。

A 『通常物図解便覧』(明治九年) ……二五二語

B 『通常物図解問答』(明治一〇年) ……三三〇語

C 『通常物懸圖教授法』(明治一二年) ……二〇〇語

いずれも、加工物が主となる語彙であり、自然物を対象とした博物分野との接点が少なく、一致する語彙は無い。

三二三 項目語に見られる特徴

日常語彙と目されるもの(アヅキ・アブラナ・ワカメ/ザウ・シギ・ヒバリなど)と、生物学の専門用語(クワイコン・ゴセウエフ・ワイトウダエンなど)が共存している。漢字表記も画数の多いものが用いられる例(蕨藁アブラナなど)も多く、総じて難解なイメージを伴う。当時も、入門段階で、いきなり専門書に取り組んだかのように感じられたのではないだろうか。

三二四 現行の理科教科書との比較

たとえば、現代の小学校理科教科書『たのしい理科/楽しい理科』

(信濃教育会出版部 平成一六(二〇〇四)年)の3年生く6年生分)を

覗いてみると、

本資料と一致する語は、次のものである。

○植物語彙……インゲンマメ・カボチャ・ジャガタライモ・トウモロ

コシ

○動物語彙……ウサギ・ツバメ

この背景には、近年の小学校理科教科書は、明治期に比べ、学習語彙が極端に減っていることも影響していると思われる。

四 まとめ

理科教科書の語彙の変遷については、初等教育段階を中心に若干の考察を行ったことがある(3)。ここでは、明治期に比べると、現代は語彙の減少が認められることを指摘した。今後は、中等教育段階の変遷についても考察の幅を広げたい。

最近(二〇一七年九月)、日本学術会議が高校「生物」に関して、「重要な用語」を五二二に絞り込む指針を出した。研究が進展する中で、学ぶべき用語が二千を超し、いつのまにか暗記科目となってしまうことへの警鐘でもあるとのことだ。

このことも踏まえると、中等教育段階での考察をはずすことはできない。

五 おわりに——今後の課題——

「通常物」を出発点に、今回は、調査対象の資料範囲を広げてみた。図解をなすものは、まだまだあり、近世期成立の同種の資料との関連を視野に入れ、さらに図解語彙集のあり方についての考察を深めていきたい。

注

1 ①拙稿『通常物図解便覧』(明治九年)の語彙とその性格——付、語

彙索引』『学海』一八(上田女子短期大学国語国文学会二〇〇二・

三)

②拙稿『通常物図解問答』(明治一〇年)の語彙とその性格——付

語彙索引——』『上田女子短期大学紀要』二六(二〇一三・二)

③拙稿『翻刻・索引』『通常物懸圖教授法』(明治一一年)『上田女

子短期大学紀要』三九(二〇一六・一)

④拙稿『通常物懸圖教授法』(明治一一年)の語彙とその性格』『上

田女子短期大学紀要』四〇(二〇一七・一)

2 たとえば、『通常物必要図解』(明治一〇年)『小学通常物問答』(明治

一〇年)など。

3 ①拙稿『理科教科書類にみる動植物基本語彙の推移』『上田女子短期

大学紀要』三六(二〇一三・一)

②拙稿『理科教科書類にみる鉱物基本語彙の推移』『上田女子短期大

学紀要』三八(二〇一五・一)

◆『文部省原圖 博物圖診解』(明治九年) 項目語索引◆

〔凡例〕

・項目語のルビによって、五〇音順に配列した。

・異体字は可能な限り活字化した。実現できなかった字は左右の関係に

ある場合は、「×」で、上下の関係にある場合は、「十」で表した。

(例)「訛」…「言×化」

・一部の項目語は、もともと漢字表記がなく、カタカナ表記のみである。

〔雲〕…「雨十二云」

菜豆	インゲンマメ	鋭尖卵形	エイセンランケイ
鸚哥	インコ	鋭頭	エイトウ
鷓「茲×鳥」	ウ	エノキタケ	エノキタケ
柴鶴鴿	ウグヒス	葉柄	エフヘイ
野兔	ウサギ	圓錐形	エンスイケイ
ウサキウマ	ウサキウマ	豌豆	エンドウマメ
牛	ウシ	オホアハ	オホアハ
ウシウマ	ウシウマ	オホカハホリ	オホカハホリ
拙老婆	ウソ	蒼鷹	オホタカ
鶉	ウヅラ	大麦	オホムギ
土當歸	ウド		
ウトウ	ウトウ	●カ行	
一角	ウニコール	包橘	カウジ
馬	ウマ	菟耳	カウタケ
粳米	ウルチ	柿	カキ
鋭尖頭	エイセントウ	蛾形	ガケイ

芥	榧	鷗	鴨嘴獸	カモシカ	鳧	番南瓜	蝙蝠	魚狗	水獺	楔形	車前葉山慈姑	蚊母鳥	土芋	鵲	カケス
カラシ	カヤ	カモメ	カモノハシ	カモシカ	カモ	カボチャ	カハホリ	カハセミ	カハウソ	カツケイ	カタクリ	カスヒドリ	カシウイモ	カササギ	カケス
麒麟	鋸齒	キムトウグワ	稷	キバシリ	狐	黄蘗	鳩	雉	木耳	キクイタタキ	胡瓜	毬根	ガンクヒマメ	雁	慈鳥
キリン	キヨシ	キムトウグワ	キミ	キバシリ	キツネ	キシメヂ	キジハト	キジ	キクラゲ	キクイタタキ	キウリ	キウコン	ガンクヒマメ	ガン	カラス

●サ行			
犀牛	サイカク	傘形花	サンケイクハ
細管	サイクワン	三集葉	サンシフエフ
細長披針状	サイチャウヒシンヂヤウ	三出葉	サンシユツエフ
象	ザウ	三尖葉	サンセンエフ
総管	サウクワン	傘房花	サンハウクハ
鎗頭形	サウトウケイ	三裂葉	サンレツエフ
サカマタ	サカマタ	茺荑花	シウテイクハ
柘榴	ザクロ	鹿	シカ
豇豆	ササゲ	齒牙	シガイ
ササコタケ	ササコタケ	鷓鴣	シギ
甘藷	サツマイモ	耳形	ジケイ
サツマタケ	サツマタケ	獅	シシ
青芋	サトイモ	白頬鳥	シジフカラ
朱欒	サボン	紫蘇	シン
彌猴	サル	鰭状	シチヤウ
		匙状	シヂヤウ

薑	玉蕈	蠟嘴	花金鼠	班驢	裙帶豆	十全葉	十字形	聚傘花	集合塊根	香蕈	ジヒシンテウ	柯子	茅栗	山藥	鱗狀分岐
シヤウガ	シメジタケ	シメ	シマネヅミ	シマウマ	ジフロクササゲ	ジフゼンエフ	ジフジケイ	シフサンクハ	シフカウクワイコン	シヒタケ	ジヒシンテウ	シヒ	シバクリ	ジネンジヨ	シヂヤウブンキ
穗狀花	西瓜	心臟形	腎形	唇形	黃大豆	越瓜	鷺	麥蕈	同蒿	蕁	車輪葉	馬鈴薯	麝獸	掌狀	猩々
スイヂヤウクハ	スイクハ	シンゾウケイ	ジンケイ	シンケイ	シロマメ	シロウリ	シラサギ	シヨウロ	シユンギク	ジユサイ	シャリンエフ	ジャガタライモ	ジャカウジカ	シヤウヂヤウ	シヤウジヤウ

スナメリ	スナメリ	薇	ゼンマイ
油桃	スパイモモ	総状花	ソウチヤウクハ
李	スモモ	双仁	ソウニン
水牛	スギウ	蕎麦	ソバ
海馬	セイウチ	蠶豆	ソラメメ
小頭花	セウタウクハ	●タ行	
石竹形	セキチクケイ	蘿蔔	ダイコン
鵲鴿	セキレイ	对生菜	タイセイエフ
水芹	セリ	回春橙	ダイダイ
尖葉	センエフ	猪肝赤	ダイナゴンアツキ
穿貫葉	センクワンエフ	番椒	タウカラシ
扇骨葉	センコツエフ	倒蛋形	タウタンケイ
龍鯉	センサンカウ	南瓜	タウナス
箭頭状	セントウヂヤウ	玉蜀黍	タウモロコシ
全辺	センヘン	楕円	ダエン
センボンシメヂ	センボンシメヂ		

筆頭菜	草石蠶	重分鱗状	重三出葉	重鋸齒	長楕円	「鼠×句」鯖	チドリ	萵苣	单仁	紫芋	披針状	狸	駝鳥	蓼	猴橘
ツクシ	チヨロギ	チヨウフンシチヤウ	チヨウサンシユツエフ	チヨウキヨシ	チヤウダエン	チネヅミ	チドリ	チサ	タンニン	タフノイモ	ダヒシンヂヤウ	タヌキ	タテウ	タデ	タチバナ
鶏脚菜	石花菜	トカリスモモ	冬瓜	テンヂクネヅミ	黄鼬	猿猴	テウセンウグヒス	薤菜	苦瓜	鶴	燕	ツノマタ	菘	ツグミ	仏掌藜
トサカノリ	トコロテン	トカリスモモ	トウグワ	テンヂクネヅミ	テン	テナガサル	テウセンウグヒス	ツルナ	ツルシイシ	ツル	ツバメ	ツノマタ	ツケナ	ツグミ	ツクネイモ

鵲豆	フシマメ	盆状	ボンチヤウ
仏手柑	ブシユカン		
豚	ブタ	●マ行	
葡萄	ブドウ	甜瓜	マクハウリ
「平十泰」菜	フタンサウ	マツコクチラ	マツコクチラ
鹿角菜	フノリ	松茸	マツタケ
分鱈状	ブンシヂヤウ	菜瓜	マルヅケ
平圓根	ヘイエンコン	「木×旬」櫛	マルフシユカム
豹	ヘウ	金橘	マルミキムカム
蒲蘆	ヘウタン	榲桲	マルメロ
漫畫	ヘラサギ	柑	ミカン
抱茎葉	ホウキヤウエフ	鴨	ミサゴ
杜鵑	ホトトギス	鷓鴣	ミノサザキ
匍匐根	ホフクコン	水菜	ミツナ
ホホジロ	ホホジロ	ミツバセリ	ミツバセリ
海藻	ホンダハラ	角鴟	ミミヅク

山羊

●ヤ行

蜀黍

桃

海蘊

糯米

秫

伯勞

藎荷

梅

野木瓜

鼯

鼯鼠

白頭翁

ミヤコドリ

ヤギ

モロコシ

モモ

モヅク

モチコメ

モチアハ

モズ

メウガ

ムメ

ムベ

ムササヒ

ムグラモチ

ムクトリ

ミヤコドリ

鶏兒腸

卷丹

瓠

桜桃

柚

楊梅

豺

ヤマネヅミ

鸛雉

ヤマガラ

豪猪

ヤホヤバウフウ

緑豆

九回芋

ヨメナ

ユリ

ユフカホ

ユスラムメ

ユズ

ヤマモモ

ヤマノイヌ

ヤマネヅミ

ヤマトリ

ヤマガラ

ヤマアラシ

ヤホヤバウフウ

ヤヘナリ

ヤツカシラ

●ラ行

貂鼠

ライジウ

松鷄

ライテウ

駱駝

ラクダ

薤

ラツキヤウ

海獺

ラツコ

卵形

ランケイ

栗鼠

リス

笠形

リツケイ

卷丹

リヤウタン

稜頭

リヨウトウ

緑刺

リヨクセキ

林檎

リンコ

鱗根

リンコン

鈴状

レイヂヤウ

漏斗状

ロウトヂヤウ

●ワ行

不正頭櫓円

ワイトウダエン

裙帯菜

ワカメ

冬葱

ワケキ

山「廿十愈」菜

ワサビ

鷺

ワシ

蕨

ワラビ

野猪

キノシシ

鼯鼠

ワカツキ

早稻

ワカホ

頭髮菜

ワゴ

鸕鷀

ワシドリ

膾肭獸

ワツトセイ

果然

ワナガザル